

令和7年度第2回大学リーグやまぐち全体会議 議事録

1 日時等

日 時：令和8年3月30日（火）15時00分～16時00分

場 所：県庁4階 正庁会議室

2 議 事

<第1号議案：地域構想推進プラットフォームの構築及び大学リーグやまぐち規約の一部改正>

◇ 事務局

- ・ 地域構想推進プラットフォームの構築及び大学リーグやまぐち規約の一部改正について、事務局から御説明させていただきます。
- ・ それでは、会議資料1の6ページをご覧ください。
- ・ 本県の地域構想推進プラットフォームの構築についてです。
- ・ まず、今回のプラットフォームの構築を考えるに至った背景を御説明させていただきます。
- ・ 現在、本県では、人口減少・少子化の進行に伴い、学生数が急速に減少するとともに、企業等における人手不足が深刻化しています。
- ・ このため、地元進学希望者の高等教育機会を確保し、地域の産業・サービスを支える人材の育成を促進するためには、これまで以上に、魅力ある高等教育機関づくりを進めることが必要となっております。
- ・ 国においては、「知の総和」答申に基づき、2040年の社会を見据え、地域の高等教育の方向性については、地域において、アクセス確保・人材育成等のあり方や取組を議論する「地域構想推進プラットフォーム」の構築を推進していくこととなっております。
- ・ 次に、7ページをご覧ください。
- ・ 取組の方向性についてです。
- ・ 「大学リーグやまぐち」を、国が示す大学と地域の連携基盤となる「地域構想推進プラットフォーム」に位置づけるとともに、新たに「地域構想推進委員会」を設置したいと考えております。
- ・ 委員会では、高等教育へのアクセス確保・人材育成機能の強化に向けた取組の方向性について議論・整理を行うこととしています。
- ・ また、この議論を進めて行くため、事務局では、国補助事業である「地域構想推進プラットフォーム」構築等推進事業の申請に向けて準備を進めているところです。
- ・ そして、委員会が策定する「山口県の高等教育の方向性」に基づき、「大学リーグやまぐち」の会員校等が連携して、本県における高等教育機会の確保や、地域産業・サービスを支える人材の輩出に向けた実効的な取組を進めてまいりたいと考えております。

- ・ 8 ページをご覧ください。大学リーグやまぐちの体制についてです。
- ・ これまでの3つの部会に加え、全体会議の下に、「地域構想推進委員会」を設置し、委員会において「山口県の高等教育の方向性案」を策定していきたいと考えております。
- ・ また、「地域構想推進委員会」には、「高大連携・高大接続ワーキンググループ」、「地域が求める人材育成ワーキンググループ」、「経営基盤強化ワーキンググループ」を設置し、各々のワーキンググループで議論を深めてまいりたいと考えております。
- ・ 9 ページをご覧ください。
- ・ 「地域構想推進委員会」において策定した「山口県の高等教育の方向性案」は、大学リーグやまぐち全体会議において審議・決定し、各部会の目的に資する取組は各部会で、教育プログラム等の教育内容や経営の基盤に係るものは、地域研究教育連携推進機構等において、方向性に沿った取組を実施していくことを想定しています。
- ・ 10 ページをご覧ください。
- ・ 「地域構想推進委員会」の主管校は山口大学とし、全ての大学・短期大学に構成員として参画していただきたいと考えています。
- ・ 「高大連携・高大接続ワーキンググループ」と「地域が求める人材育成ワーキンググループ」は、山口県立大学にリーダー校を、構成員には、大学、短期大学に加え、大学リーグやまぐち会員の各機関の皆様は、それぞれの分野で有する知見やノウハウを活かして参画していただきたいと考えております。
- ・ そして、「経営基盤強化ワーキンググループ」は、SPARCによる大学間連携のノウハウをお持ちの山口大学にリーダー校をお願いさせていただきたいと考えております。
- ・ 11 ページをご覧ください。
- ・ 各ワーキンググループにおける目指す方向性と検討内容例です。
- ・ まず、「高大連携・高大接続ワーキンググループ」です。
- ・ このワーキンググループでは、学生数の急速な減少を踏まえ、県内高校等と連携して高校生のニーズや進路意識の変化等を的確に捉え、県内大学・短期大学等への進学促進に向けた取組を強化していく議論をしていきたいと考えています。
- ・ 高校ニーズ等の把握と効果的な対策の検討では、県内全高校への訪問ヒアリングや、山口県公立高等学校長会との意見交換などを実施し、県内大学等と高校の結びつきを深めるため、県内大学等の進学を促進する先取履修制度の拡大や、高校生に大学等の1日体験入学を実施、大学のリソースを活用した高校の探究活動支援等を挙げさせていただいております。
- ・ また、高校から地域の高等教育機関への接続強化として、推薦入試における地元枠の拡大等を検討してみたいと考えております。
- ・ 次に、「地域が求める人材育成ワーキンググループ」です。
- ・ このワーキンググループでは、企業等における人手不足の深刻化に対応し、本県

の産業・就業構造を踏まえ、地域の産業界や社会生活を支える人材の育成に必要な高等教育を推進するとともに、学生の県内就職を促進していく議論をしていきたいと考えています。

- ・ 将来の県内の就業構造のシミュレーションの実施、育成すべき人材ボリュームを把握するとともに、産業界のニーズや将来の産業・就業構造の変化などを踏まえた高等教育の検討を挙げさせていただいています。本県の産業構造・今後の成長分野への移行や、高校教育改革に連動した理工系人材の育成、県内企業のビジネス展開等を見据えた情報学科等のカリキュラムの充実等の議論を想定しています。
- ・ また、エッセンシャルワーカーの需給見通しを踏まえた人材育成の検討として、将来的な人材ニーズを踏まえた持続可能な高等教育のあり方について、大学間の認識の共有と必要な対応策を議論していくとともに、就職後のミスマッチを生じさせないフィールドワーク等の現場重視のキャリア教育の実践に関しても議論を行ってみてはいかがかと考えております。
- ・ 社会人のリカレント、リ・スキリング教育の充実に向けた検討としては、山口大学に事務局が設置されております、「やまぐちリカレント教育プラットフォーム」と連携し、地域の企業等のニーズに応じた教育プログラムの構築と展開を議論してみてもいかがかと考えております。
- ・ 次に、「経営基盤強化ワーキンググループ」です。
- ・ このワーキンググループでは、持続可能な高等教育の実現に向けた経営基盤の強化を図るため、全ての国公立大学等を対象に、様々な大学間連携パターンの整理・構築に関して議論していきたいと考えています。
- ・ 教育・研究、組織運営の共同化による経営効率化の検討として、共通する学術領域における連携開設科目の開設・教員の相互融通や、各種システムの共同化・共同調達の検討等を挙げさせていただいております。
- ・ また、高等教育機関の稼ぐ力の強化に向けた検討では、高等教育機関が少ない地域において、地域のニーズに着目した生涯学習講座に係るサテライトキャンパスの開設等を想定しているところです。
- ・ 12ページをご覧ください。
- ・ 「地域構想推進委員会」を設置することに伴う規定の改正案です。第9条の「部会」の設置に係る規定に、「委員会」を追加するものです。
- ・ 説明は以上です。

◇ 山口県立大学（田中学長）

- ・ 山口県立大学の田中でございます。地域構想推進プラットフォームについては、国が進めているところですが、2035年くらいから18歳人口がどんどん減っていき、2040年には現状の30%が減少すると言われていので、2035年までには目途を立てて、人材育成を考えて進めていかなければ、もう遅いということになります。

- ・ 現在2026年なので、もう10年を切っている状況となっております。ただ人数が減るので大学の在り方を考えるということでは、山口県の人材育成を育てていくことができないので、将来において、山口県の地の利、これまでの財産をどのように発展・維持させていくために、どういう産業が広がり、起こり、或いは変わっていくのかというところを見据えた人材育成を考えていかなければならないので、将来の地域の構想と教育との連携ということで、地域構想推進プラットフォームとして、大学リーグやまぐちの中で、委員会を設置して深い検討をしていくということとは、とても重要であると考えています。
- ・ 国で進められない理由としては、国は、各地域、県の実情はよく把握できないということで、スピード感を持って改革に取り組んでいくためには、各県単位でしっかり取り組んでいかなければいけないということで、このネーミングになったと理解しています。山口県では、知事が早々に「大学リーグやまぐち」という、山口県が一体となって考える素地を作っていただいているので、この「大学リーグやまぐち」を舞台に、さらに先に進むということがとても重要だと思いますので、この地域構想推進プラットフォームによる議論を成功裏に収めていただければと考えています。

◇ 会長（谷澤学長）

- ・ 山口県立大学の田中学長がお話されたように、まだ少し先のように思えるが、あまり先ではないという状況です。例えば、国立大学では、中期目標や中期計画というものがありますが、今、第4期の最後の2年が始まろうとしています。これから第5期の目標・計画を作らないといけない状況となっていて、この第5期が終わり、第6期になると、もう急速に若者の減少、18歳人口の減少が始まって来ます。第5期の間にしっかりと計画を作っておかないと、第6期を迎えることができないということになっています。
- ・ それぞれの各機関で、中期目標・中期計画の立て方は違ってくると思いますが、準備することができる期間というのは、そのくらいになっているので、これから2年くらいの間に大方の構想をまとめて、先に進んで行かないと対応が間に合わないと考えています。
- ・ 新たに、大学リーグやまぐちの全体会議の下に、地域構想推進委員会と3つのワーキングを設置するというので、そういったワーキングで活発に議論していただきたいと考えています。それと同時に、これは高等教育機関だけで議論できるものではないので、地域の産業が、今後どういうふうになっていき、どういう人材が求められるのか、或いは、県の施策や各自治体の施策がどう向かっていくのか、そういうことと一緒に議論をしていかなければいけないと思っています。

<第2号議案：令和8年度事業計画（案）及び収支予算（案）>

◇ 事務局

- ・ 令和８年度事業計画（案）及び収支予算（案）について、事務局から御説明させていただきます。
- ・ それでは、会議資料１の１４ページをご覧ください。
- ・ 令和８年度事業計画案です。
- ・ 令和８年度の「県内進学・魅力向上部会」、「県内就職部会」、「地域貢献部会」の各取組を紹介させていただいています。これまでの取組を振り返り、新たに取り組む事業や、見直しにより拡充する事業について、御説明させていただきます。
- ・ では、１５ページをご覧ください。
- ・ 県内進学・仕事魅力発信フェアの開催についてです。
- ・ 県内高等教育機関や企業等が、高校生等に対して県内大学や仕事の魅力を紹介するフェアを開催するもので、来年度は、これまでよりも、より多くの方の参加が望めるよう、山口きらら博記念公園にございます、「やまぐち富士商ドーム」を予定しています。
- ・ 来年度は、全ての大学・短期大学の参集、県内企業の出展者数の増加と、参加対象を高校１年生から１・２年生まで拡大や、中学生・保護者の参加も可能にしていこうとしています。
- ・ 次に、１６ページをご覧ください。
- ・ 小中大連携の促進についてです。
- ・ この取組は、高校の段階では既に進路を決定している生徒も多いため、県内の児童・生徒が、より早期から県内大学等の教員や学生との接点を持てるよう、小・中学校と連携し、各大学等の学術分野を活かした体験型イベントを促進するというものです。
- ・ 例えば、音や音楽を図や絵で表現する芸術性を高めた図工教室等のワークショップや、模擬講義等の一日キャンパス体験といった取組を想定しています。
- ・ 次に、１７ページをご覧ください。
- ・ 山口きらめき企業の魅力発見フェアの開催についてです。
- ・ 就職活動前の大学生等が地元企業の魅力を発見し、理解を深めるためのフェアを開催するもので、令和８年度は、これまで以上に、学生と企業の満足度の高いマッチング環境を構築したいと考えています。
- ・ 具体的には、まず、出展企業数等を拡大し、より多くの企業様にご参加いただけるかたちにしたいと考えています。また、これまで参加されてきた学生や企業からいただいた、もっと話を聞きたい、もっと話をしたいという声を踏まえ、ブースでの企業の説明や学生との意見交換の時間を１回当たり１５分から２０分に延長することとしています。
- ・ これにより、参加する学生のブース回りが低下しないよう、企業訪問数・業種数に応じてノベルティを配布する「スタンプラリー」について、より多様な業種のブース訪問を促進する企画へと見直しを図っていくこととしています。
- ・ 次に、１８ページをご覧ください。

- ・ 企業サロンの開催についてです。
- ・ 県内企業で活躍する卒業生等を大学等に招き、身近に感じる先輩と交流することで、学生と企業を繋ぐとともに、山口県で働くことの魅力や仕事のやりがい、キャリア形成など、卒業生等の本音やアドバイスを聞くことができる交流会の実施を促進するものです。
- ・ 次に、19ページをご覧ください。
- ・ 課題解決型学習PBLの促進についてです。
- ・ 現在、PBLの取組は、3分の1程度の高等教育機関が、専門教育を充実させたいといった理由等により、未実施校となっています。
- ・ このため、令和8年度は、専門教育や実習に多くの時間が必要となる学術分野など、その分野特有の課題等に対応してPBLの取組を実践できるよう、地域活性化人材育成アドバイザーが、教育カリキュラムに沿った具体的な連携先や取組テーマ等を提案するなどしていきたいと考えています。
- ・ また、PBL未実施校の解消に向けては、同じ学術分野でノウハウを有する実施校と合同したPBLの取組を促進することも考えています。
- ・ 次に、20ページをご覧ください。
- ・ 令和8年度収支予算案です。
- ・ 令和8年度は、先程、御説明させていただいた新たな取組や取組の拡大等により、予算額は前年度に比べ、300万円程度の増額となっています。
- ・ 次に、21ページをご覧ください。各部会の数値目標の達成状況等についてです。
- ・ 県内高校出身者比率については、前年度からプラス0.7%の37.9%、県内就職率については、前年度からマイナス0.6%の30.8%となっています。
- ・ PBL実施校については、1校増加し、計12校となったところです。
- ・ 数値目標には届いていない結果となってしまいましたが、今回見直した取組や新たな取組により、引き続き、精力的に取組を進めてまいりたいと考えています。
- ・ 説明は以上です。

◇ 山口経済同友会（平岡代表幹事）

- ・ 県内就職率が若干下がったということだが、県内就職者数はどうでしょうか。山口県の大学の進学者数が多ければ、数としては増えているのではないのでしょうか。周南公立大学はそのようなかたちになっています。

◇ 事務局

- ・ 就職者数は3,694人、うち、県内就職者数は1,139人となっています。傾向としては増えているのではないかと考えております。

◇ 山口県専修学校各種学校協会（関谷会長）

- ・ 山口県専修学校各種学校協会の関谷と申します。進学フェアを11年間にわたっ

て実行委員長を務めてきました。今年度からは大学リーグやまぐちでやっていただけるということなのでどうぞよろしくお願いします。

- ・ まず、お願いは、過去11回やってみて、公立高校の参加者がとても少ないので、公立高校から1校でも1人でも多く出て、1人でも多くの人たちが県内進学・県内就職できるようにお力添えをお願いしたいというのが1点。2点目、今週から4月が始まるが進学フェアの日程が表に出ていません。1年間の日程が決まるので、9月から12月の間と聞いていますが、早急に日程を決めて教えていただきたい。

◇ 事務局

- ・ まず、1点目の公立高校の生徒の参加を積極的に行うということであるので、今年度は県立高校からは9校程の参加をいただいています。さらに参加者が増えるよう、教育委員会に働きかけてまいりたいと考えています。2点目、日程については、9月から12月の間ということですが、富士商ドームの予約期間の関係があるので、日程が決まり次第、できる限り早めに日程の方をお知らせしたいと考えています。

◇ 会長（谷澤学長）

- ・ JOBフェアはいつ開催の予定となっていますか。

◇ 事務局

- ・ JOBフェアは7月の予定となっています。

◇ 会長（谷澤学長）

- ・ 今年は、維新大晃アリーナの改修があるため、例年より早く開催する予定になっています。確定次第、皆様にご案内を差し上げたいと思っているので、どうぞよろしくお願いします。

<第3号議案：役員の改選>

◇ 事務局

- ・ 役員の選任について、事務局から御説明させていただきます。
- ・ それでは、会議資料1の23ページを御覧ください。
- ・ 高田監事が今年度末をもって周南公立大学学長を退任されることに伴い、残任期間の監事について、ご後任である進士氏を選任するもので、任期は令和8年4月1日から令和8年10月11日までとなります。
- ・ 説明は以上です。

(質疑なし)

3 報告事項

＜県内高等教育機関の新設学部等の紹介＞

◇ 山口大学（谷澤学長）

- ・ S P A R C 事業で、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学とで文系 D X の育成をしているところです。今回は、工学部の再編を行い、同時に、情報学部を新設しました。工学部には、従来から知能情報工学科があり、これを改組し、入学定員を 40 人増員し、120 人として、新たに情報学部を設置しました。
- ・ 情報学部は、システム情報学、知能情報学、空間情報学、人間情報学をベースに 4 つのコースを設置し、それぞれのコースには理数科目があるが、同時に 4 分野を広く学習できるカリキュラムにしており、先進的な情報処理技術、複眼的視野で課題を解決できる。そういったところに挑戦する。強い意欲と思考力を持った先端 I T 人材を育成するということで、まもなく、今週の金曜の入学式で新たな学生を迎える予定となっています。時代の要請に応える情報人材を育成していきたいと考えている。
- ・ 他の学科では、工学部として、創生工学科、建築学科の 2 つに再編します。機械工学科、社会建設工学科、循環環境工学科、応用化学科、電気電子工学科、感性デザイン工学科、知能情報工学科を創生工学科として一つに統合します。それぞれの専門性は重要なので、それは継続して人材を育成していくが、同時に一つの学科になったということで、複数の分野を学ぶことができるということで、ここでも複眼的視野で新たなイノベーション、創造的な仕事ができるような工学系の人材を育成するというものです。
- ・ 建築学科は、従来から感性デザイン工学科がありましたが、これもカリキュラム体系を再編して、建築学科、名前も分かりやすくなったと思うが、こういったかたちで、新たに再スタートし、この春、新たに入学生を受け入れることとしています。工学系の学部は、横断的に広く学んだ上で、専門性を高めていくこととしています。
- ・ 今回の再編で受験生が、志願者がどういうふうな動向になるか関心を持っていたところで、情報学部の志願倍率は前期 2.7 倍、後期 6.6 倍となり、工学部の志願倍率は全体で 2.1 倍、後期 8.1 倍ということで、今年は隔年減少がある年なので、少し心配していたが、新たな学部を設置したことや再編したことを受け入れていただいたのだと思っています。
- ・ 山口大学からは以上です。

◇ 宇部工業高等専門学校（内堀副校長）

- ・ 宇部工業高等専門学校も D X 人材を育成していこうということで、カリキュラムの再編・改組を行いました。高専のミッションとしては、地域に根差した中核的な技術者を育成していくということで、既存の専門領域を廃止して情報系にするということではなく、機械工学科、電気工学科、物質工学科の専門家の人たちも情報系、D X の技術を持って活躍できるようなカリキュラムに変更しました。機械工学科と物質工学科にはコースを設置し、電気工学科は電気システム工学科に改組しています。
- ・ また、そのための教育の場として、今、I - C U B E という建物を建てていますが、

本校の教育の場だけでなく、地域企業の方との連携やSTEAM教育の場として活用していきたいと考えています。

- ・ 説明は以上です。

4 意見交換

◇ 山口学芸大学（岡村学長）

- ・ 今後の進め方についてです。特に、地域構想推進委員会、それぞれリーダー校が書いてあるが、そちらの動きの連絡を待っていたらよいでしょうか。

◇ 事務局

- ・ 4月に関係機関の皆様、地域構想推進委員会、各ワーキンググループの委員就任に係る意向確認のご案内をさせていただきたいと考えております。その後、委員会を開催し、委員に着任していただきまして、そこをスタートに議論を進めてまいりたいと考えております。

◇ 山口学芸大学（岡村学長）

- ・ お待ちしています。全体の総論は賛成です。ただ、私立大学としては、具体的な話を進めていく中で、できないことはできないと申し上げざる得ないこともあると思っています。特に経営的な問題は、国公立とかなり違ってくるので、人の派遣等に関しては難しいことはあると思いますが、その辺はまた各論で議論して、音頭をとっていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

◇ 会長（谷澤学長）

- ・ 大変重要なことだと思います。議論が各論に入っていくに従って、当然、難しい問題もでてくることもあると思いますが、しっかり進めていきたいと思っています。

◇ 事務局

- ・ 先程、平岡委員からご発言のあった県内就職者数について補足致します。令和5年度と令和6年度は、同数の1,139人となっており、校種別では、大学がやや増えて、短期大学と高等専門学校はやや減少している状況となっています。
- ・ 「山口きらめき企業の魅力発見フェア」については、7月24日土曜日の開催となっていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◇ 会長（谷澤学長）

- ・ 学生には、まず、県内の企業を知ってもらうことは重要なことで、例えば、山口大学は約75%が県外出身の学生なので、案外、山口県の企業はBtoB（企業同士の取引）の企業も多いので、立派な業績を上げている、ものづくりの企業が知られていないということもあるので、積極的に学生にフェアへの参加を呼び掛けてまいりたいと

考えています。

- 本日は、地域構想推進プラットフォームの構築についての最初の会議になりました。今後、議論を深めて、この「大学リーグやまぐち」のメンバーの皆様と相談をしながら、今後10年以内に18歳の減少は明らかに顕在化していくことは決まっていることです。それに向けて、この地域の高等教育機関、高等教育をどういうふう維持し、あるいは発展させていくかということについて、「大学リーグやまぐち」で皆様と相談させていただきたいと思っていますので、どうぞお願い申し上げます。